

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1 ○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自のスローガン 「表現を受け止められる人になろう」	○	事業所としてこの理念を周知、徹底し実践していける様、カンファレンス・ミーティングにて浸透させて行きたい。又、地域に対しても運営推進会議を活用し、事業所の理念を広く伝えていき、住み慣れた地域で安心して生活を続けられる支援を地域資源の役割として果たして行きたいと考えている。
2 ○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	カンファレンス・ミーティング、又面接・相談の際、この言葉を使用する様にし、立ち戻り考え、共有して行ける様、日々活用している。	○	今後は、勉強会や研究会等、視点を変えた中で理念を活用し続ける取り組みを進めて行きたいと考えている。又、理念の重要性を実感できる研修会への参加も積極的に職員には提供して行きたいと予定している。
3 ○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域運営推進会議を活用し、家族や地域の人々に理解してもらえる様、取り組んでいる。しかし、広く地域の方と関わり伝えて行く意味では、実践は充分ではない。家族の方に理解していただく事も決して充分とは言えない。	○	運営推進会議の枠をはずれ、ご家族様だけの会議を設置し、伝えて行く必要があると考えている。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4 ○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方となるべく関わりを持てる様、会話・挨拶には心掛けている。又、気軽に立ち寄れる様に玄関先にプランターを置く、扉を開放する等の配慮に努めている。	○	現状でもふと立ち寄り、家庭菜園のやり方を教えていただいた方と、玄関先のベンチで入居の方を含め会話する等の光景は増えてきている。しかし、単発的で受身である事から、事業所として発信し会話できる場面を増やす必要はあると考える。バザーや夏祭り等。
5 ○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域運営推進会議にを開くに終わっている。	○	この外部評価でのアドバイスを参考に検討したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	目指すべき所はここにあると自覚はしている。テーマとして持っている「ストレスのかからない認知症介護」や介護の知識を在宅の介護に広げて行きたいと考えている。日々の実践がそれに繋がると考え、理念を含めた事業所の役割を更に職員に周知して行きたいと考える。	○	少しでも早く形にし、まずは入所相談に来られた方から実践していければと考えている。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価シートへの記入を職員にしてもらう事で気づきがあり、管理者が答える事で改善に向け動いている実感はある。しかし、具体的な改善や意義の理解に関しては積極的には行なえていない。	○	今回の外部評価項目は非常に簡素化されている為分かり易く、実践・改善に一項目ずつ検討して行きたい。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	理念の理解を念頭に置き、サービスの状況を報告、話し合いが出来ているとは感じている。そこでの意見から改善、サービスが向上できたと思われる点も何点もある。	○	もちろんご本人・ご家族様にも了解をとった上ではあるが、日常の様子をビデオでとり、推進会議で上映する。様々な場面から意見をいただき、ホームの理念に基づいた上で、話し合いをしたい。結果的にサービス向上に繋がる事と考えている。
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外では積極的な機会は作れていない。	○	それぞれの立場から地域において必要なものは何か？事業所・行政・地域にとり必要なものは何か？を意見交流できる場を設ける必要がある事は感じている。
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護・後見人制度の研修会には管理者が進んで参加している。関係者との話し合いの上、実際任意後見の契約をされている入居者の方もいる。	○	事業所として、まだまだ知識として充分ではなく、活用できるに至っていない。今後研修会には積極的に参加する事を考えている。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会参加にて学ぶ機会は確保できていると考える。介護者のストレスが溜まらない様、配慮には心掛けている。	○	介護者のストレスといった視点から、虐待の予防を考えたい。職場環境を整え、組織作りを基本に職員にも周知して行って欲しいと考えている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の内容はもちろん、口頭での不安・疑問点の解消には心掛けている。面接相談以外でも入所の際の家族記入欄を多く設け、ご本人とご家族の意向をなるべく出して頂く様、配慮している。	○	入所相談時にアンケート式の不安・疑問点を書き出せる用紙を渡し記入していただく。その内容に応じ事業所が答えを出し、明確にご本人・ご家族に伝えられる形をとってみてはどうか?と考える。
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	フロア内の苦情相談窓口の掲示・ご意見箱の設置は当然である。それ以外であれば生活の中での発言・訴えは大切に傾聴し反映しようと努力はしている。	○	日々の生活の中から出た苦情・訴えに対しては整理する必要がある。別途の用紙を作成し、記録として残していく。必要であれば掲示する等し、苦情・要望自体が流されて消えない様に行きたいと考える。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	特変時はもちろんの事、受診の際、変わり・内服の変更があった際には、報告させて頂いている。金銭管理の報告、日常の様子に関しては月に1回請求書に同封しお便りとして送付させて頂いている。職員の移動や入退職に関しては、フロア内に出勤職員を提示しているが、報告には至らず、充分ではない。	○	これを期に、職員の移動や入退職に関しては運営推進会議にて定期的に意識を持ち報告して行きたいと考える。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	フロア内の苦情相談窓口の掲示・ご意見箱の設置は当然である。それ以外であれば、運営推進会議の場面や面会時の関係作りにて表せる機会を作れる様、努めてはいる。	○	上記のアンケート式の用紙による質疑応答を面会時に目のつきやすい場所に一覧掲示し、ご家族間で共有できる形をつくりたい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	食事・行事・業務に関する各委員会を設置。各ノートも作成し、職員からの意見も聞ける形はとっている。ミーティングや、個々の面接・相談からも聞く機会は心掛けとっているが、意見や提案を出し易い環境が充分ではない為か積極的ではない。	○	管理者から何か議題を出し問いかける形を取り、気持ちや意見を引き出す必要は感じている。決まった時間を持ち個別の面談は行なわず、突発的に個別に、又定期的に全職員に対し行なって行きたい。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	そこまでは出来ていない。	○	必要である事は充分に感じている。現在の入居者の生活・その方自身を見つめ直し、全体的に把握する必要があると思う。考え方を改めて行く事が大切だが、まずは理念を基本に実行していく事を第一としたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	最低限の職員の異動を心掛けている。離職につながるような職場環境づくりには努めている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	前年度から社会福祉協議会の各段階に対する研修には積極的に職員には参加させている。報告書の記入も義務付け、報告も受ける。理解度が足りない場合は、管理者が補足している。その他の研修に対しても機会の確保には努めているが、事業所独自の計画は立てきれていない。	○	職員個々に研修・育成の計画は必要だと思われる為、作成にかかりたい。事業所内でもトレーニングの機会を設けていきたい。職員が主となる勉強会や、入居者体験は検討している。
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が関係づくりをするに留まっている。	○	他のグループホームや同法人内の事業所と勉強会や研究会を開きたいとは考えている。インフォーマルな集いも職員も入れ定期的に行なってみたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	残業はさせず、職員の配置は充分にし、有給休暇の消化を勧めている。職員のストレスを軽減する意味ももった理念とテーマを日々伝え続けている。	○	自らの有給休暇をまとめて使えるリフレッシュ休暇を個々にとっていけるようにしたい。管理者からは、面接相談にて職員のストレス軽減をこれからも図っていきたい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各自入居者の担当・委員会の担当を設け、仕事の内容・実績を明確にしている。気付きのない部分に関しては管理者から問いかけるか、研修に参加してもらい、各自で気付き自己決定・自己実現できる環境には心掛けている。又、介護福祉士・介護支援専門員の受験のサポートも積極的に行っている。	○	職員各々、向上心を持てるポイントは違う。全ての職員に対し充分にそのポイントが把握できているかと言えばそうではない。管理者自体が把握できる努力にこれからも努めたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前の面接・相談の際、重要な点として聴く事は心掛けている。その場で発言する事が難しい場合においてはバックグラウンド等の用紙になるべく希望を記入できる枠は設けている。飲酒・喫煙・持ち込まれる物品に対しては希望に添う形で受け止める努力は行なっていると考え。	○	口頭での質問で、記録に残しておかなければ理解が不十分でご迷惑をおかけした事もあった。各質問事項・不安点を聞き、返答と共に用紙に書き出し手渡す配慮も必要と感じる。又、重要事項説明書を見つめ直す事も必要と感じている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前の面接・相談の際、重要な点として聴く事は心掛けている。その場で発言する事が難しい場合においてはバックグラウンド等の用紙になるべく希望を記入できる枠は設けている。飲酒・喫煙・持ち込まれる物品に対しては希望に添う形で受け止める努力は行なっていると考え。	○	上記と変わりはないが、ご家族の場合、ご本人を前になかなか事業所に聞けない事もある様である。ご家族様だけの別途同様の用紙も作成し、手渡す事も考えている。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	あくまで入所相談ではなく、相談を受けた援助者の立場という事を意識している。支援の形はもちろん、必要であればリフレイミングに努めている。	○	とは言え、入所相談としての間口しか開けていないのが現状である。周辺地域の方々に、広く介護の相談所としての機能を持っていると認識を持って頂ける様、運営推進会議の場面から発信し、又、それに応えられる様事業所としては努力したい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	面接・相談や、バックグラウンドの内容にて必要であれば、馴染める様、お会いできる場面は多く持っている。入所当初はホームでの流れに合わせて頂く事は決してせず、ご本人の意思・意向に任せ徐々に馴染みの関係を構築できるよう配慮は行なっている。	○	入所前にデイサービスとしてホーム内で生活する事を検討したい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	高齢者として尊重し、昔の話などを聞かせてもらっている。親としても先輩の方々なので、話を参考にさせてもらっている。	○	本人が今感じられている環境を、その場面場面で、スタッフが感じとり、耳を傾けたり、昔の話など教えていただく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28 ○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	月に一回その月の様子や出来事をお伝え出来る様手紙を書いて写真を同封したり、交流会を行いコミュニケーションをとるようにしている。	○	遠方の家族様でなかなか来れない方には、手紙だけでなくビデオレターを送ったりして様子をお知らせ出来ればと思います。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	バックグラウンド・調査票に目を通しご本人の性格を考えた上で、ここに何故いるのかを説明し家族様の思いや、考えを伝えるようにしている。	○	家族様との地理的な距離、家庭事情での距離がある場合があるが、利用者の方が積み重ねてきた家族様との思い出・思いをアルバム等見ながら話していくケアを実施していきたいと思います。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様とはイベント参加の呼びかけをしているが、友人や知人となるとできていない。	○	家族様の同意を得た上で、ご本人の逢いたい友人に連絡をとり、イベントや誕生会に参加していただけたらと思います。
31 ○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	トラブルがないよう、時と場合により支援している。	○	入居者同士の関わりが難しい場合、スタッフが間に入りコミュニケーションをとるようにする。数人が集まるテーブル席は、会話のきっかけとなる為、フロアで過ごされる様、言葉をかける。
32 ○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所されてもいつでも気軽に遊びに来て下さい、と声をかけるようにしている。	○	その後いかがお過ごしでしょうか？と手紙・葉書・電話等で関係を持ち続ける。イベントや行事がある時は参加を呼びかける。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向・希望はある程度バックグラウンドにて情報収集しているが、1人1人の思いを改めて聞けていない。	○	自らの思いや、希望する暮らし方を人に伝える事が難しいと思われるが、その方を見させていただき、その人らしさを知るようにしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドにてグループホームに来られるまでの生活、暮らし方に関しては把握に努められている。	○	バックグラウンドなどで知りえた情報をホームの中で引き出して行き、アセスメントを続けながら、経過の把握に努める。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1人1人1日の過ごし方、心身の状態は個々に把握しているが、実際、その日によって有する力が変わってくるので努めてはいるが、難しい。	○	1人1人と向き合い話せる時間によって、環境など引き出していければと思う。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスした内容を介護計画にのせている。本人・家族様との話し合いは十分に出来ていない。職員間で話をしている。	○	職員間での話し合いでケアの立案をしているが、作成していく時は、本人・家族・職員を交えての話し合いをし、計画作成に繋げる。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人・家族を交えての計画作成前の話し合いはできていない。職員間での決め事が多い。決定してから家族様に説明している。現状の変化がみられた場合、計画作成はしている。	○	①見直しが必要な場合、本人・家族・職員を交えて計画作成をしていく。②現状の変化に即時対応をしていきたい。③スタッフ間での気づきを積極的に出して行けるチームワークを作っていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートを活用し、何か気付いた点があれば記入していくようにしている。利用者のケアについて変更がある場合は、カンファレンスノートにのせる。	○	アセスメントからモニタリングまで正確に行なっていく為に、スタッフの誰が見ても分かる文面で記入する。⇒このことにより、気づきができる為、カンファレンスの即実行につながられる。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ショートステイ・認知症デイの認可は受けておらず、多機能性の面で柔軟な支援が出来るとは言えない。	○	地域のニーズ・ご本人・ご家族のニーズを把握し、認可を受けた上で、地域資源としての役割を意識したいと考える。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方には運営推進会議に参加して頂き、地域住民の現状、ニーズを教えていただいている。ボランティアは隣接のデイサービスと共同で活用している。消防においては、母体である明治橋病院への搬送等、事前に協力をお願いし受けて頂いている。	○	入居者の自己選択・自己決定を尊重した場合、更に地域（その代表者である民生委員・町会長の方）警察・消防等、地域にあるネットワークにリンクさせていく必要性は感じている。まずはホームでの理念を固めて行き、積極的に行きたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	それに至っていない。	○	既存の枠にとらわれず、支援できる様、検討して行きたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働は現状ではほとんど出来ていない。	○	本当に地域密着が進むのであれば、当然必要である。権利擁護等の制度に関しても、必要性は感じている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	○	<p>ご家族様付き添いの受診においても、定期的に職員が付き添う形を取り、事業所と主治医の関係性を母体である病院は当然の事、図って行きたい。ご本人・ご家族が緊急時の対応も明確になるよう文章として各々提示し、安心を感じて頂きたいと考える。</p>
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>将来的には、専門的・定期的に診断や治療を受ける必要はあると思う。母体である医療法人にも働きかけ、体制は整えたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>事業所の独断にならない様、専門職からの意見は必ず聞く様にしている。ホーム内での看護職員の配置を法人と相談しながら検討したい。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>協力医療機関においての入院に対しては、積極的に相談できているが、他院においても行き、本人及び家族が安心出来る様努めたい。病院関係者にグループホームを理解して頂く為の努力もする必要は感じている。努めて行きたい。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>病院・主治医とご家族の間に立ち積極的に情報を共有・整理する役割を更に意識したい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>「できること・できないこと」はその時点で明確に話をご家族にさせて頂ける様、配慮したい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	環境の変化に対するダメージの軽減を図る為のスケールを事業所として作成したい。現在ではその都度の感覚・経験に頼りっている事も多い為。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	食卓テーブルなど入居者の目に届いたり、聞こえる所で入居者の事で会話などしないようにし、相談事などある時は、入居者の居室や、詰所などでするようにしていきフロアでは特に気を付ける。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	○	その都度、説明を行い、ご本人が納得し行動していけるよう心掛けて行きたい。
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	職員の人数により優先順位が決まってしまうのは致し方ないが、自分で出来る範囲は希望に添って行く。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	○	洗面台に化粧品を並べたり、服を見て頂き、その日の気持ちで洋服を選んで頂く。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備・片付け・一人ひとりの好みの食卓・個別メニューを取り入れている。食事作り、調理は実施できていない。	○	毎日の食事であり一つでも出来る事をしていただき、自分でできる事を感じ喜んでいただきたい。利用者様の意思を尊重する。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個別に嗜好品を楽しめる様、支援している。日中いつでも希望があれば支援している。外食希望も実施いつもではないが実施できている。喫煙希望の方にも希望に合わせて吸ってもらっている。	○	近くのコンビニまで行き、好きなおやつ等を選び購入する援助は日々行っている。買い物は付き添いせずなるべく自分が買いたい物を自分で支払いし満足出来る様援助していきたい。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々に排泄のリズムに合わせて、なるべくリハビリパンツに頼らず、トイレにて排泄を促している。排泄の失敗で不安にならない様配慮している。失禁のある方には早い目にトイレの言葉かけをしている。	○	失敗しても大丈夫とと思っていただけるよう利用者様の立場に立ったおらかな対応に心掛ける。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に何回と決めず本人の希望時に入浴していただいている。入浴拒否の際は無理に薦めない。夜間帯希望された時職員一人の為実施できていない。	○	入浴拒否の方は、下着交換清拭を行っている。夜間希望も対応していききたいが現実には難しい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	状況を見て支援している。訪室し少しでも安心していただけるようにしている。	○	訪室により、話しかけてこられる事もあり、その時の気分や気持ちを少しでも受け止められればと思う。季節に応じた入眠しやすい温度調整。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	仕事・役割の支援はしているが、する人が決まってくる。一人ひとりの楽しみとなるとまだまだ十分な支援はできていない。	○	カラオケなどの楽しみごとは支援している。一人ひとり自分でできる役割を作りたいので、何ができ、何に関心があるのか、を把握したい。バックグラウンドと現在の利用者の方の持っている力を把握し、ケアに繋げて行こうと思う。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を使えるような支援はしている。本人がお金を持つと言う事はしておらず。	○	お金を持ちたいと言われる方については、持っただけの様な支援をしていきたい。自由に使えるお金を持っていただき、コンビニ等で買い物できるように支援し見守っていきたい。
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に添って外出している。職員の人数が少ない時はできていない。	○	スタッフが少なく外出出来ない時は、ホーム近くの散歩を援助したり、少ない時間でも希望に添ってあげたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	四季を通じて支援している。ご家族さんと共にイベントがあれば参加を呼びかけているが、外出は、一部の人がしかできていない。	○	ご家族さんと一緒に外出や外食などをさせていただきたい。行きたいと希望があれば、できるだけ付添いたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの届け物があれば、本人より嫌でなければ電話していただいている。家族からの希望により本人希望にそえていない。職員からもホームでの様子を毎月手紙で知らせている。	○	毎月の手紙の中に、本人様から一言でもいいので手紙を書いてもらいたい。書けない人は代理で職員がかくなど、取組んでいきたい。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に来て頂ける様、イベント時にはご家族に知らせている。職員とも気軽に話が出来様な、雰囲気づくりに心がけている。	○	入所者の家族様同士も気軽に話せる様な雰囲気づくりを取り組んで行きたい。家族の会も検討して行きたい。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理解・意識は十分にできている。積極的に意識し取り組んでいると思う。	○	拘束から来る弊害も、管理者からは説明し、必要になった場合であっても代替案を常に模索できている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	○	<p>「帰りたい」「外へ行きたい」という思いを持ち続けて頂く為、自由に出入り出来る様、鍵はかけずドアは開放する様にしている。</p>
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	○	<p>利用者様の行動を把握するよう努めている。業務をこなしつつ常に監視の目ではなく、さり気なく利用者様の様子を配慮する。</p>
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	○	<p>刃物等の危険な物に対し、利用者の方がどの程度の使われ方をされるのかを見る。危ないと感じる時は、いつ?どんな場面で?危険なのかを把握し、スタッフ内でどこまで保管するか検討する。</p>
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	<p>ただ、事故防止が過ぎれば管理になってしまう点も拭い切れない。適度な事故防止は自然な形で行える様、管理者の指導により定期的に見直して行きたい。</p>
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	<p>勉強会として定期的に訓練は実施する。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>避難訓練に地域の方々にも参加してもらえる様、運営推進会議の中から発信してみたいと考える。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご本人の意思決定や思いを大切にしたいと考える事は理念を入れ話させて頂き、リスクについても同意は得ている。	○	ただ、入所時に十分にホームの理念を理解して頂く事は難しいと考える。家族会・運営推進会議の場においても続けてお伝えはして行きたいが、事業所単発では限界がある。第三者評価機関を通じても認知症ケアの重大な点として、まずはグループホームだけでも広がっていければ事業所は心強いと思います。
73 ○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタルチェック。常に体調の変化に気を付けている。利用者情報ノート・介護記録を常に職員の間で目を通し対応している。体調変化の際は記録をし、スタッフ間の情報を共有している。	○	職員全員が利用者の体調の変化を把握し、情報交換する。
74 ○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬袋の名前、顔と2重の確認をしている。使用している薬の目的副作用等十分に把握できていない。	○	服薬の支援・症状変化の確認に努めている。薬局から渡される薬情にしっかり目を通し理解していきたい。
75 ○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給・応急処置として、腹部でマッサージをする。個々に応じた下剤を服用していただいている。日常生活の中で洗濯・片付け等、体を自然と動かせる環境設定には意識し、支援している。	○	便秘の原因や及ぼす影響を理解できておらず、勉強会等を開きたいと思う。
76 ○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、言葉かけにて見守り歯磨きを促している。又、介助の必要な方にはスタッフが口腔ケア介助をする様に一人ひとりの状態にあわせた支援をしている。週一回はポリデントを使用し、歯科往診を行っている。	○	個々に使用しやすい様、洗面台周りの環境設定は出来ている。週一度の訪問歯科にて清潔保持の確認は行えている。ケアを拒否される方については、快く応じて下さった時の精神状態・タイミングを把握していかなければならない。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に一度は個々が食べたいもののメニューを考察して頂き、夕食として提供している。食材を毎日発注している為、個々の習慣に応じた支援はできていない。	○	今日は○○が食べたいなど利用者から自然に声が聞こえてくる様なホームにして行きたい。月に1・2回から個別メニューを実施したい。利用者個々の食べたい声を聞き一緒に買い物し調理をして行きたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	マニュアルを作成し、対応している。定期的に外部の勉強会には参加し、理解を深めている。	○	インフルエンザ・ノロウイルス・疥癬に関しては、対象時期に予防策を実施している。
79	○食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材に合わせての保管はしている。しかし、外国産国産に関わらず、現在の品質の信頼性に欠けている為、新鮮かつ安全な食材を提供しているとは言えない。調理用具は洗浄し、乾燥機にて乾かしている。	○	食の安全という面で世論でも不安が広がっている為、業者との連携を図る。食中毒の危険を回避する為、調理用具や、布巾など熱湯殺菌や、漂白剤にて消毒している。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には案内板をおいてある。家庭的な雰囲気を出す為、門扉・プランター・ベンチを設置している。	○	自由に出入りしても良いのだと思っていただく為、扉の開放を行い、行き来し易いようにしている。町内会長と交流できるセッティングの依頼をし、イベントの数を増やす。夕涼み会・もちつき・子供会等。
81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブル席を3つ配置している。周囲に農地が多く静かである。四季を取り込める壁画を飾り、利用者の方にも手伝って頂いている。	○	トイレの中など、飾り気がないので、もう少し布・花・香り・カバー等で装飾していく。玄関など、施設感をなくして行きたい。設置している車椅子をのける等。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになれるようなソファの設置はしている。共用空間のテーブルに対し、定位置を決めている訳ではないが、利用者の方はその場所に座られる。	○	共有空間の中で、視界を消せるようなツイタテがあるのが良いのかみる為に個別スペースをツイタテのようなもので作って様子を見る。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている	自宅で使われていた筆筒や椅子等を居室に設置し 自宅の雰囲気を出す様にしているが、利用者全員 の居室が出来ているとは言えない。	○	利用者様と話をして今の居室の居心地を聞きこの ままでいいか？どんな部屋にしたいか？を聞いて 行きたい。
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	エアコンでの温度調整、居室の換気扇利用や窓の 開閉を行い、利用者様の体調や訴えに合わせて配 慮している。夏は26度以下にはエアコンを設定 しないようにするなど、空調には考慮している。	○	利用者の要望に応え、対応して行きたいと思いま す。日々の体調の変化を把握する。定期的な清掃 をしていく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	自己にて排尿・排便が出来る様、ベットサイドに ポータブルトイレを設置したり、動線に合わせて 椅子や机などを置き、手すりが変わりになるよう工 夫している。椅子や机が反対に障害物になってい る場合もあるようだ。	○	利用者にあった環境作り。転倒予防の為、履物に も気を付けてもらっている。利用者の視点から家 具の配置を考えて行きたい。季節ごとの衣替えを 入居者と一緒に行いたい。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室前よりトイレまでビニールテープを貼り迷い をなくす。見やすく表札を大きく書いて貼る。個 人で洗濯や食器洗いをされる方もいるが決まった 人に限られている。	○	一人ひとりが分かる所までしていただく。混乱を 招いた時はすぐに対応して見守りにて出来る所を 自然と引き出せればと考える。
87 ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	玄関前にベンチをおいて外気浴をしたり、プラン ターを置いて花を観賞したりできるようにしてい る。	○	もっと安全で、自由に行動出来る様、外周りや空 間の活用をして行きたい。利用者と共に花の苗等 買い物に出かける。ホーム裏手にデッキを作った ので利用者の方と楽しみたいと思っている。

( 部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム田井城の里ではスローガンとして「表現を受け止められる人になろう」という言葉を掲げている。今迄問題とされてきた様な行為や発言、言葉ではない表現とも向き合い、認知症高齢者の症状として簡単に処理する事のない様、入居者の生活における権利を尊重し、その人中心のケアに結びつける意味を含んでいる。自己選択・自己決定・自己実現を尊重し、何も考えず生活のできる環境ではなく、その方々にあった適度な住み難い環境設定を取り入れ、他人の力に頼らず、なんとか自分で選択・決定した事を達成していただける充実感のある生活を、職員の監視の下ではなく、心地よい見守りの中で送って頂きたいと考えている。また、テーマとして掲げるのが「ストレスのない介護」である。認知症を誤解なく正しく理解し、考え方を少し変える事だけで、本人・介護者共にストレスなく生活が続けられる考え方と環境を追求したいと考える。これはグループホームだからこそ出来る介護として考えるのではなく、いづれは地域の認知症高齢者を抱える介護者の方々にも参考にして頂ける様、在宅でもできる認知症介護として発信して行きたいと考えている。現段階では、スローガンを軸として、入居者主体の生活を実践し、テーマに向け実現出来る様、追及している段階である。